縦軸と横軸が交わるとき（B 面）

福島県尚英中学校　八木　一真
東京都北区立飛鳥中学校　本田　大輔

八木先生のレポートでは、オンライン交流授業そのものの様子や指導の過程をご紹介しました。後半の私のレポートでは、そこに至るまでの数々の仕掛けについてご紹介します。八木先生のレポートがレコードのＡ面（メインソング）であるなら、私のレポートはＢ面（カップリング）です。カップリングだから大したことないだろうと思うかもしれません。しかし、読み進めていただければ、昨年の「対面塾」と「オンライン塾」の２軸の学びをどう活かしたのか、お分かりいただけると思います。

八木先生は７月の本番から遡ってレポートしましたが、私は５月の連休明けから物語をスタートさせます。

目次

1 「私のパートナーは誰？どんな人？」
2 すごい作品が送られてきた！
3 お礼の手紙がパートナーから届いた！！
4 交流直前のサプライズプレゼント！！！
5 裏の準備は念入りに
6 学びと課題

1 「私のパートナーは誰？どんな人？」

ざわざわ、ざわざわ。
ゴールデンウィークがあけた、５月中旬の教室。
教室の端に生徒たちが集まっていました。そこには次のような張り紙がありました。

番号	尚英中学校		番号	飛鳥中学校			
1	阿部　橙季	あべ　ゆずき	1	ヨン	よん	稲澤　美宝	いなさわ　みほう
2	荒　瑠希	あら　りゅうき	2	大野　華鈴	おおの　かりん		
3	伊藤　悠月	いとう　ゆづき	3	湯佐　響己	ゆさ　ひびき		
4	遠藤　冬彩	えんどう　といろ	4	寺本　神楽	てらもと　かぐら		
5	加藤　妃華	かとう　ひめか	5	大川　夏実	おおかわ　なつみ		
6	加藤　未結	かとう　みゆう	6	斎藤　大千	さいとう　たいち		
7	鎌田　煌平	かまた　こうへい	7	野々村　希望	ののむら　のぞみ	諸星　吉珠	もろほし　あんず
8	菅野　心愛	かんの　ここな	8	熊澤　旺悠	くまさわ　あきひさ		
9	菅野　美月	かんの　みづき	9	奥本　貴一	おくもと　きいち		
10	菅野　結叶	かんの　ゆいと	10	鈴木　琴美	すずき　ことみ		

左側に尚英中の生徒の名前
右側に飛鳥中の生徒の名前
が印刷された簡素な名簿。

「この子が私とペアの子か。どんな子なんだろう。」
「先生、この子は男の子ですか、女の子ですか？」
「本当に一対一でやるんですね！？」

嬉々とした顔で自分のパートナーとなる尚英中の生徒の名前を確認する飛鳥中の生徒たち。「私のパートナーは、なおとくん！」なんて言って喜ぶ生徒までいました。

八木先生と仕掛けたオンライン交流授業への仕掛けがついに始まりました。
お互いの学校の生徒たちは４月の時点では、このオンライン交流授業の実現に半信半疑でした。
しかし、ゴールデンウィークがあけて、名簿が貼り出された瞬間、「本当にやるんだ！！」と実感したそうです。

「でも先生、相手の子がどんな子か全くわかりません。」
「そんなこと言ったら、それは向こうも同じじゃない？」

生徒たちの声を拾って、八木先生のクラスでも本田のクラスでも、お互いが生徒に向けて次のように言いました。

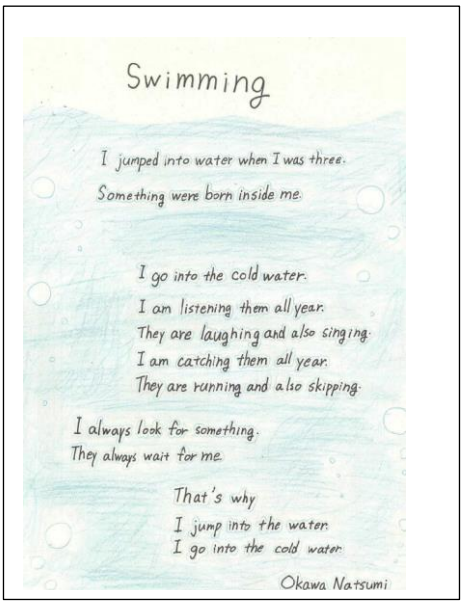
「だから、自己紹介をパートナーに向けて書くんだよ。」

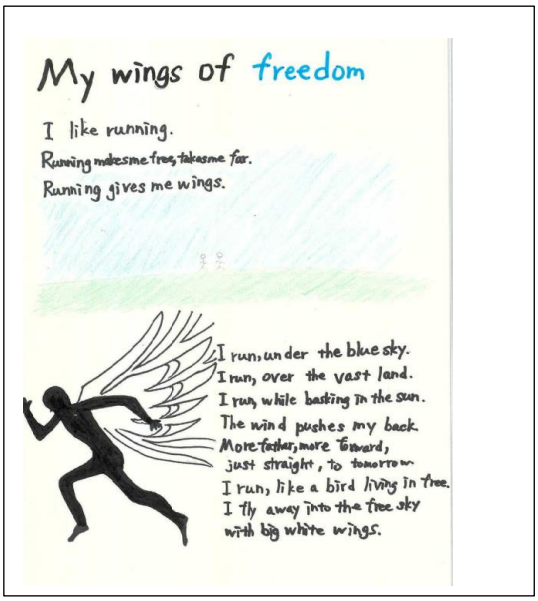
生徒たちの次の活動が意味づけられた瞬間でした。

2 すごい作品が送られてきた！

New Horizon Unit2 では「英語俳句」について学びます。そこで全生徒に自己紹介俳句を書いてもらい、お互いの学校のパートナーに送ることになりました。
作成の過程で、自己紹介俳句は自己紹介の詩、そしてより自由なものへと変貌し、こだわりの作品が生まれることになりました。
特にお互いのクラスの良い作品を送り合うことで、教室中から歓声が沸き、「私もこんな作品を作りたい！」という思いに火が点きました。

八木先生クラス、Ｍさんの作品。
この作品を契機にして、本田クラスの作品熱が一気にあがった。
次項の２作品は本田クラスのもの。
生徒の感受性に驚くと同時に、それをもっと引き出せない自分に苦しむ。





生徒に詩や作品を作る課題を課してきたことのなかった私たち二人は歓喜に湧きました。生徒の感性や感受性に一気に惚れ込む幸せな日々でした。

ところで、生徒たち自身は作品の交換にどんな感想をもったのでしょうか。

以下の感想を読んで、何を授業に取り入れるべきなのか、ハッとしました。受験のために読む、点数を取るために読む英文から、相手を知るために読む、相手に伝えるために書く喜びやワクワクを授業で演出してきたか、自問自答せざるをえませんでした。

【自己紹介の作品を読んだ時の生徒の感想】

とてもドキドキした。今度話すことになる相手のことが書いてあると思うと、とてもワクワクしたし、自分の学力が相手に通用するのかという不安もあった。実際に読んでみると、自分の好きなことがたくさんつまっていて、とても楽しく読めて、オンライントークが楽しみに感じた。

ただ文章で渡されるのではなく、詩になっていたため相手の感性を知ることができて、とてもワクワクしました。また、素敵な絵も描かれていて、その詩をつくるのにいかに時間がかかっているかわかり嬉しかったです。

一番最初に感じたのは「嬉しい！」です。特に、〇〇さんは僕が手紙で好きだと言った鉄道の絵を描いてくれたのがとても嬉しかったです。手紙には相手の好きなものの情報や絵を描くと喜んでもらえると思いました。きっと自分がされて嬉しいことは相手も嬉しいと思います。

すご。やば。こわ。めちゃくちゃ学びを得られる人とパートナーになれたのに、自分から学びを送れてない気がする。それがすごく悔しい。相手が「飛鳥中と交流できてよかった。」と思ってもらえるようにしよう！と思って挑んだオンラインミーティングで相手が休みだったので、もう一度交流できる機会がほしい。そして次の人は絶対に満足させてみせる！

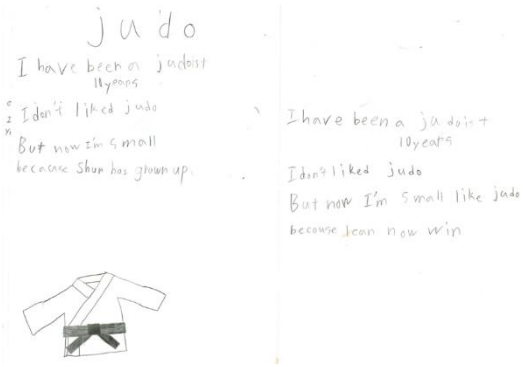
一方八木先生の教室でも変化が起こっていました。パートナーからの作品を読んだり、友だちに送られてきた作品を交換しあったりして読みふけっていたのです。

私たちはお互いの教室の様子を報告し合い、「対面塾」「オンライン塾」での協働学習の日々を思い出していました。

「真の学び合いが始まろうとしている」

目の前で起こる化学変化に目を白黒させていました。さらに驚いたことに、これまで全く提出物に無頓着だった生徒が、初めて作品を提出してきました。英語を書くことを非常に苦手としている生徒ですら、相手がいることで活動に参加するようになったのです。

「相手がいるから書ける」
その生徒はそう、つぶやきました。

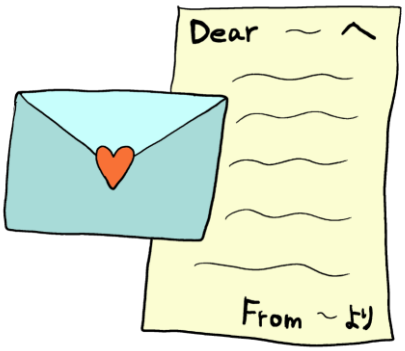


ここでも私たちは塾での学びを回収しました。

主体性とは、人に強いられるものではなく、自分で「あっ」と気づき、「よし、自分も」とスイッチが入った時に起きることです。（塾長）

3 お礼の手紙がパートナーから届いた！！

６月中頃、双方の学校へ、先ほどの自己紹介作品が届けられました。生徒たちは一心不乱に読みふけり、ある生徒は歓喜し、ある生徒は相手の英語力の高さに恐れおののき（？）、ある生徒は送られてきた作品の完成度の高さに、自分が送った作品の未熟さを嘆いていました（笑）



八木先生クラスからは PDF ではなく、「**直筆」のお礼の手紙**を速達で届けてもらい、飛鳥中の教室は歓喜に湧きました。

お礼の手紙を英語で書くのは生徒たちにとって初めてのことで、なかなか筆が進みませんでした。

そこでも活躍したのは、生の「友達の手紙」でした。

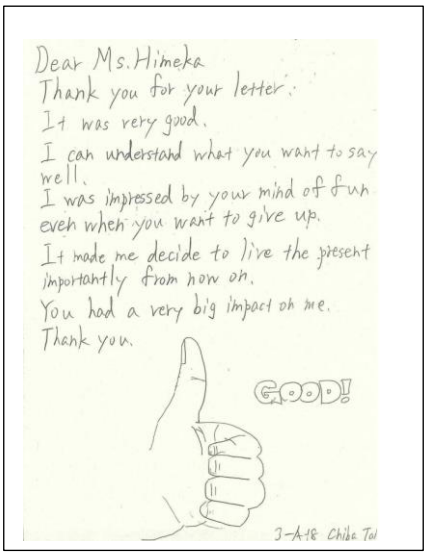
Thank you for writing me a beautiful letter. I was very happy to read it. I enjoyed the pictures you drew. You told me that you like … . And I have a question for you.

一足先に書き終わった生徒の手紙を印刷して配布し、良いところを検討しました。生徒から、①手紙をくれたことへのお礼　②もらった喜び　③相手の手紙へのポジティブな返事　④手紙の内容への言及　⑤ 質問が書いてあると良い。特に、相手の手紙の内容を繰り返したり、言及することで、「しっかり読んでくれたことが伝わる」という気付きがありました。

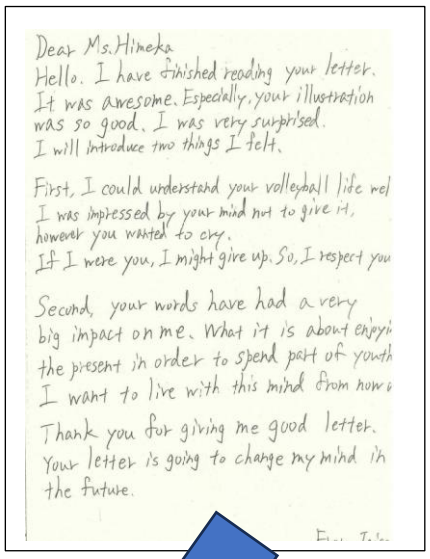
生徒たちは自分たちで、相手目線に気づき、自分の初稿の手紙と比較し、書き直しを行っていました。

次ページから、飛鳥中のある生徒の「手紙の変遷」が載っています。友人の手紙の内容の豊かさ、相手目線に触発され、推敲後に完成した手紙は相手の心に響くものになりました。

【初稿】


Dear Ms.Himeka
Thank you for your letter.
It was very good.
I can understand what you want to say well.
I was impressed by your mind of fun even when you want to give up.
It made me decide to live the present importantly from now on.
You had a very big impact on me.
Thank you.
GOOD!
3-A 18 Chiba Tai

【第２稿】（友だちのものと比較後）

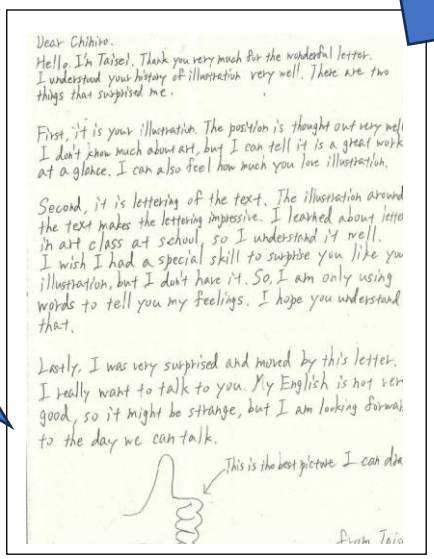

Dear Ms.Himeka
Hello. I have finished reading your letter.
It was awesome. Especially, your illustration was so good. I was very surprised.
I will introduce two things I felt.

First, I could understand your volleyball life wel
I was impressed by your mind not to give it, however you wanted to cry.
If I were you, I might give up. So, I respect you

Second, your words have had a very big impact on me. What it is about enjoyi the present in order to spend part of youth
I want to live with this mind from now o

Thank you for giving me good letter.
Your letter is going to change my mind in the future.

【完成稿】（さらに推敲）


Dear Chihiro.
Hello. I'm Taisei. Thank you very much for the wonderful letter.
I understand your history of illustration very well. There are two things that surprised me.

First, it is your illustration. The position is thought out very wel
I don't know much about art, but I can tell it is a great work at a glance. I can also feel how much you love illustration.

Second, it is lettering of the text. The illustration around the text makes the lettering impressive. I learned about letter in art class at school, so I understand it well.
I wish I had a special skill to surprise you like you illustration, but I don't have it. So, I am only using words to tell you my feelings. I hope you understand that.

Lastly, I was very surprised and moved by this letter.
I really want to talk to you. My English is not ver good, so it might be strange, but I am looking forwar to the day we can talk.

This is the best picture I can dra

from Taisei

「一度書いたら終わり」ではなく、「納得いくまで」書くという粘り強い姿勢こそが「主体性」の一つだと昨年教わったからこそ、生徒に何度も推敲を促すことができた。

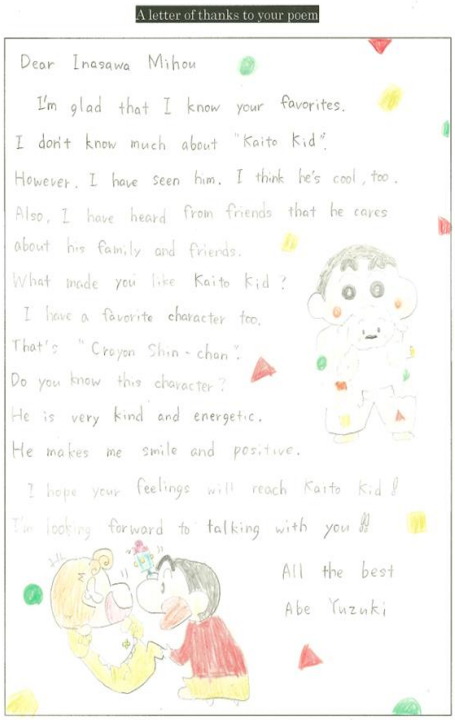
「どうしてこんなに書けたの？」そう尋ねると、「〇〇さん（パートナー）の努力に応えたかったからです。」と返ってきました。

八木先生のクラスでも同様のことが起きていました。相手の詩を何度も読み返し、辞書を駆使してコメントを考える。言い回しが相手にとって難しくないかを友達にチェックしてもらい再び書き直す。相手からの質問に答えたり、関連した質問をこちらから投げ返す。

相手から送られてきた詩には、いつもの友だちとの話題とは異なるものも含まれていました。同じ学校の、いつもの友だちとなら、自分が興味のあることだけを話すことができます。

しかし今回は、相手から提供され話題について適切なコメントをする必要があります。教室内では、授業時間外にも関わらず、送られてきた詩を読み合い、相手のために懸命にコメントを考える生徒の姿がありました。

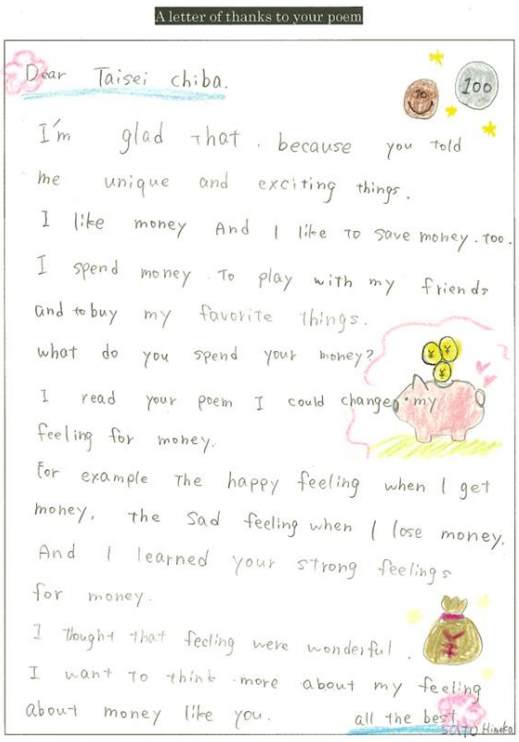
生徒が書いたお礼の手紙の一部


A letter of thanks to your poem

Dear Inasawa Mihou

I'm glad that I know your favorites.
I don't know much about "Kaito Kid".
However, I have seen him. I think he's cool, too.
Also, I have heard from friends that he cares about his family and friends.
What made you like Kaito Kid?
I have a favorite character too.
That's "Crayon Shin-chan".
Do you know this character?
He is very kind and energetic.
He makes me smile and positive.
I hope your feelings will reach Kaito Kid!
I'm looking forward to talking with you!!

All the best
Abe Yuzuki


A letter of thanks to your poem

Dear Taisei chiba.

I'm glad that because you told me unique and exciting things.
I like money And I like to save money. too.
I spend money To play with my friends and to buy my favorite things.
what do you spend your money?
I read your poem I could change my feeling for money.
for example the happy feeling when I get money, the sad feeling when I lose money.
And I learned your strong feelings for money.
I thought that feeling were wondeiful.
I want to think more about my feeling about money like you.
all the best
SATO Himika

私たちは、生徒のあまりの成長ぶりに驚きが隠せませんでした。何よりも多くの生徒からこんな言葉が出てきたことに感動しきりでした。

「相手に喜んでもらえるような作品や手紙を書きたい」

初めて生徒たちから聞いた言葉でした。交流授業に向けての、それまでのやり取りがもたらす生徒への影響の大きさは計り知れないものがありました。

4 交流直前のサプライズプレゼント！！！

パートナーの発表、自己紹介作品の作成と交換、お礼の手紙の交換を経て、徐々に本番の７月が近づいてきました。

私たちのオンライン授業への最後の仕掛けは、「ビデオレター」に決めました。

八木先生クラスから送られてきた珠玉の作品群を一斉に開き、歓声をあげる本田クラス。その歓喜に湧く様子をビデオで録画したのです。そしてそのシーンを切り取って編集し、八木先生クラスに送信しました。

八木先生のクラスでも同様に、本田クラスから送られてきたお礼の手紙を開くシーンを映像に撮ってもらい、送ってもらいました。

「この作品すごいです。すごすぎます。」（笑顔でパートナーを自慢する）
「なんで僕のペアは毎回こんなにハイクオリティなんだ～！！」（頭を抱える様子）
「どうかお手柔らかに願います。」（ペコリと頭を下げる）
「attractive って書いてくれてる！嬉しすぎる！」（友達に自慢する）
「当日はよろしくお願いします！」（ニコニコと手を振る）

お互いのクラスが、お互いのクラスの作品を読み合う様子、楽しみにしている様子を映像で共有しました。クラスのワクワク度合いが一気に高まる瞬間でした。

こうして７月の本番に向けて、徐々に熱を高めていったのです。

中嶋先生の HP に次のようにあります。

当たり前ですが、「記録」が残っていなければ編集はできません。つまり、「しまった、録画しておけばよかった」「生徒のノートをコピーしておけばよかった」では後の祭りだということです。かといって、全てを記録に残すことは到底できません。だとしたら、大切なことは、**何を仕掛けたときに、何が知りたいから「記録」（生徒の作品やノートも含む）を残しておくのかという「ビジョン」（グランド・デザイン）になります。**

（なかよう備忘録　自分の「足跡」を適宜、言語化する（意味付ける）ために）

昨年、「対面塾」「オンライン塾」の２軸の交流の際、どの場面を写真や動画に撮るのかを予め決めておくことの大切さ、バックワードデザインの緻密さを、私は何度も中嶋先生に教えていただいたのです。その経験を今年、子どもたちの学びに活かすことができました。

5 裏の準備は念入りに

オンライン交流授業は、「えいやっ」と重い腰をあげれば必ず実現できます。しかし、それ相応の裏の準備が必要となります。今後、挑戦したいと感じてくださった方々のために備忘録的に準備を記しておきます。

❶ ICT 支援員さんの助けを借りる。
➡ 飛鳥中では週１勤務のため、何を・いつまでにしてもらいたいのか明確にしておく必要がありました。勤務日の変更もお願いする必要がありました。
❷ お互いの学校の生徒のアカウントを把握する。
❸ お互いの学校の校長先生を紹介し、挨拶していただく。
❹ 教育委員会とかけあって、他県のアカウントと交流しても大丈夫な設定になっているかどうかを確認した。
❺ Google meet の「小部屋」を必要な数だけ ICT 支援員さんに設定していただいた。また、万が一うまくいかない時のために「予備」の部屋も作成しておいた。
➡ 尚英中、飛鳥中双方の ICT 支援員さんが、お互いに保険をかけあう形で、補完しあう働きにした。
❻ 交流本番の前の週（放課後）に、リハーサルを行った。
❼ ハウリングやマイクの集音の精度を考慮し、生徒を３部屋に分割した。その際、座席も指定しておいた。
❽ タブレットのマイク設定がオンになっているかどうかを確認した。
❾ 生徒にイヤホンを持参してもらい、使用してもらった。
❿ 他のグループの妨げにならないように、交流が終わってからの活動も指定しておいた。

１回目の７月３日（水）にはスムーズにいかなかった接続も、２回目は難なく成功し、一生懸命自分のことを発表する姿が見られました。

発表を前半組、後半組と分けました。前半組が発表している間、後半組は録画を担当、発表が終わればその役割をチェンジすることになっていました。
（オンライン塾の発表のスタイルからヒントを得て、八木先生が提案してくれました。）

録画が終われば、各自がロイロノートで提出ボックスに提出します。しかし、ここで大事なことがあります。意外と見落としがちで、その後のトラブルに発展するかもしれないことです。

「データは確実に消去させる」

ということです。友達のタブレット内に、自分のスピーキング映像が保存されたまま、というのは非常に危険です。もちろんお互い仲のいい間柄ではありますが、「もしも」のことがあります。そこで、確実にデータを消去し、さらにゴミ箱まで行って、完全消去させることまで徹底しました。

（中嶋先生があれほどまでにデータや映像の流出に気を配られていたことの意味が、当事者になってみて初めて、身に沁みました。）

ここまで万全な準備をして迎えた 7 月 3 日(水)でしたが、実はオンライン交流はうまくいきませんでした。意外なところに落とし穴が隠されていました。

それは、ICT 支援員さんの経験不足でした。

当日は、Zoom のブレイクアウトルームを用いて「一対一」の交流が行われるはずでした。しかしながら、ブレイクアウトルームを思うように開くことができず、開始するまでに 20 分も時間をロスしてしまいました。北区が契約している Zoom は 40 分間限定のものであり、ブレイクアウトルームの予約設定ができず、当日手作業で行うことになっていました。ICT 支援員さんが「当日で大丈夫」とおっしゃってくださったので、それ以上突っ込むことができませんでした。

当日までに放課後のリハーサルや、教育委員会にかけあって他県の生徒のアカウントを許可していただいたり、特別に Zoom を許可していただいたり、ハウリング等が起こらないように教室を３つに分けたり…と万全の準備を施した「つもり」でした。

まさかのミスにより 20 分も無駄にしてしまい（最終的には Google meet を用いて、交流は成立)、私の心は後悔で一杯になりました。

「人間関係を遠慮してはならない。」

中嶋先生の教えはこんなところにも活きていました。

また、生徒が所有しているタブレットのマイクが故障していたり、音声が届きにくい機器もあり、ハード面での環境整備に奔走しました。授業をつぶしてそのチェックをしていると、肝心の英語力をあげる時間が足りなくなります。しかし、Zoom や meet などのソフト面、機器そのもののハード面も整っていないと当日にあたふたします。

次回への大きな課題となっていますし、これは一人ではどうにもならない問題です。育て

たい子ども像やつけたい力を共有し、専門家の力を借りることも私たちには必要なのだと痛感しました。

6 学びと課題

（1）生徒アンケート

アンケートから見えてくるものはなんでしょうか。

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ（自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンラインで実施する）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

今回のオンライントークを通じて、僕は英語の得意不得意よりも、コミュニケーションをとろうとする姿勢が大切だと学んだ。本番で僕は相手の学校の子と話すとき、うまく英語にできなかったり表現が思いつかなかったりすることが何度かあった。でも、うまく話せなくても話そうとしていれば、友達や相手の子が色々と助けてくれた。そのため僕はその姿勢が大事だと思った。

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ（自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンラインで実施する）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

今回のコラボで相手目線に立って物事を考えることの大切さを知りました。例えば、修学旅行レポートでは、相手は自分といっしょに修学旅行に行ったわけじゃないので、固有名詞や情景がわからないことが多いです。なので固有名詞の説明や、写真を見せたりすることが大切ということを学びました。

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ（自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンラインで実施する）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

はじめはとても緊張したけれど、簡単な挨拶からはじめて自己紹介をしていくことで段々と英語で積極的に話せるようになりました。つまり、はじめに挑戦するかしないかでその後が大きく変わるという事。ここから、どんどん挑戦を大切にしていきたいと思いました。相手が手紙などで言っていた内容をうけて更に話を発展させることによってその後の内容が膨らみ会話が弾みました。ここから相手の意見をくみとる大切さに気づけました。

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ（自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンラインで実施する）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

今までは自分のクラスの英語しか聞いていなかったが、交流を通して、相手が自分に伝えたいということがよく英文に出ていて、自分もちゃんと相手に伝えたいことを伝えなければならないと感じ、背すじがのびる思いになった。また、相手の英語力が高く、とてもしげきになった。

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ（自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンラインで実施する）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

見知らない相手との交流の楽しさ。それを英語で話すことの難しさ。人と交流するのに言語は関係ない。今回の交流を通して、言語など関係なく、様々なことを得られた。（相手が得られたかどうかは分からないが）これが不安。手紙の返事で一番参考になるのは、ほん訳機でも単語帳でもなく、相手の手紙そのものである。

1 尚英中学校/飛鳥中学校とのコラボ（自己紹介を送り合う/修学旅行レポートとQAをオンラインで実施する）からあなた自身が気付いたこと、学んだことはなんですか？

最初、会ったときは緊張したけどQAのときや発表しているときに合の手や応答があったから初対面でも上手く行うことができたし、QAも相手を思いやりながら・相手に合わせてできたと思う。自己紹介を送り合うところから始まった私たちだけど意外と話せるものなんだなと思った。こつこつ送り合いを続けて、相手を知ることもできて良かった。なかなかない、オンライン交流というこの機会で、関係を築いたり交流の幅広さを学べた。しかも英語でなのに！

この感想用紙も八木先生のクラスと「同じ」ものにして、相手へのお礼も含めて「交流」したことは言うまでもありません。

「繋ごうと思えば、いくらでも繋ぐことができるんですよ。」

中嶋先生が伝えてくださったことの意味が、少しずつ分かってきた気がしました。

(2) 今後の指導の方向性（生徒の声から）

生徒が交流中、何に困っていたのか、足りていないスキルは何か。それも生徒が教えてくれました。

お互いの意見交換をうまくやるのが難しいと思った。だからこそ、レポートでは自分が一方的に話すのではなく、相手に問いかけたり意見や考えを聞いたりして、より広げて話をしていけるといいと思った。

➡ スピーチの途中での効果的な問いかけを用意する。

僕が〇〇さんに”Do you know Nara Park? Have you been there before?”と聞いた時、予想していなかった”Yes”が返ってきてしまいました。その後、もともと用意していた”Ah, you have never been there. It is famous for deer.”が言えませんでした。次の発表に向けてこの部分は改善します。

➡ 問いかけを用意したならば、その返答に応じて展開を臨機応変に変えられるようにする準備をする。

次回もう一度やるときに意識したいことは自分のことを話してから質問するということです。例えば私は”How many score could you get?”といきなり聞いてしまったけれど、”When I tried it, I got 100 points. How about you?”のようにすると相手も答えやすく、次の会話につながると考えました。

➡ 問いかける前に、自分のことを話してから尋ねると相手も話しやすい。

パートナーの話す内容をマッピングに書いたけれど、少ししか書けませんでした。マッピングを上手に書くために重要な情報だけを書くことがQAで楽になることがわかりました。
相手がしゃべり終わってからこちらが質問を始めるまでの時間が思っていたよりも短かったので、次回は相手がしゃべっている間に質問を考えようと思いました。そのコツとしてマッピングをすることが大切だと思いました。マッピングで記録しておくことによって相手の言いたいことを理解した上で、質問を考えることができると思うからです。

➡ 普段からインタビューマッピングでキーワードを聞き取り、メモする習慣を強化する。

QA をしたときは、なるべくオープンクエスチョンを意識してマッピングを書きながらやるとやりやすいことに気づいた。

➡ QA をする際には、相手が答えやすいように、Why や How などで広げたり、Yes/No Question を挟むようにする。

少し反省になるのですが、内容が定型文になりすぎたなと感じています。スピーチそのものはうまくいったのですが、話す順番を決める際など、それ以外の部分で意思疎通ができなかったので、次回は自然な会話を心がけたい。

➡ クラスルームイングリッシュで、ペアやグループ内でのやり取りも英語で行えることにより、さらにスムーズにするようにする。

いつもやっている My favorite ○○などのトピックで尚英中の人と即興で話したり、QA をしてみたい。また、複数でのディベートバトルなどをやってみたい。(多数)

➡ ９月以降、「このトピックなら２分間話し続けられます」という武器を 10 個は用意する。さらに、尚英中と話してみたいトピックを生徒たちからアンケートで聞き取り、夏以降に自分たちで選択して話せるようにする。

生徒たちの声をまとめると以下のようになります。
９月以降に必要な指導が見えてきました。

[話すこと(スピーチ)]
① 話の途中で、**相手の理解度を確認したり、効果的な問いかけ**を挟むようにする。
② 問いかけた際、**Yes と No のどちらが来ても対応できる**ように次のフレーズを準備しておく。
③ もっと多くのトピックで自由に話し合えるよう、**様々なトピック**でスピーチできるようにする。**武器となるトピックを 10 個**もつ。

[話すこと（やり取り）]
① QA をする際に、**相手の話を引き出す**ようなオープンクエスチョンをする。ただし、それが続かないようにその前に Yes / No で答えられる質問等も挟む。
② QA をする際に、**キーワードを聞き取って**メモするインタビューマッピングの手法を

より強化する。そのために、上手な生徒のマッピングを紹介したり、OHP で実際に映しながら「実況中継」で学べるようにする。
③ 相手に質問する際は、いきなり疑問詞を使って問いかけず、**まずは自分のことについて話してから、問いかける**ようにする。
④ 定型文に頼らないようにするために、9 月以降、多くのトピックについて話せるように鍛える。定型文を暗記していることが悪いのではなく、多くの活用できる定型文を手に入れることにより、その中から**選択して表現できる力**を伸ばす。

7 振り返りを言語化してみて

育てたい姿、つけたい力を話し合うこと。２軸（飛鳥中と尚英中）を交わらせる数々の布石、マッピングをはじめとした共通言語（中嶋塾での学び)、学習者心理を活かすこと、学習者にとっての「レアリア」、祝賀会・卒塾式からの学び、そして自分たち自身がワクワクすること…

私のクラスでも、八木先生のクラスでも、パートナーからの手紙や返信、そして修学旅行レポートを読むときは教室が静まり返り、真剣に読みふけっていました。そして相手から作品が届いた時にはどよめき、教室中を歩き回っては友だちの作品を交換していました。彼らにとっての**「レアリア」**はそこにあったのです。

７月１１日（木）オンライン交流当日。ある生徒が体調不良で遅刻との連絡が入りました。
「きっと欠席に変わるに違いない。」
次の瞬間、私の目に飛び込んできたのは、時間ギリギリに飛び込んできた生徒の姿でした。

「絶対に休むわけにはいかないと思って。」
その声を聞いて、私はこの交流の意義を悟りました。

卒塾してから３か月が経ちました。
「まだ３カ月しか経っていないのか。」というのが正直なところです。
このレポートを書くにあたり、マンダラートでキーワードを書き出し、マッピングで整理しました。その時、昨年の学びが確かにそこに在りました。
中嶋先生からしていただいたこと全てに感謝したいです。先生がありとあらゆる場面で私たちを鍛えてくださらなかったら、このような未来は待っていなかったと断言できます。中嶋先生、本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。